



 1,000通のメッセージ	 身体的接触
<ul style="list-style-type: none">■ OOちゃんのことを考えると体が熱くなるの■ OOちゃんを骨が折れるほど抱きしめます■ ハグとチューを していつてこと!?■ 後ろ姿は肉付きがよくて とても好きなの	<ol style="list-style-type: none">① 飲食店でソファの横から太ももを触られた② 懇親会の席でテーブルの向かいから両足の間に足を入れ絡めてきた③ 突然スカートの中に手を入れ太ももの裏と臀部<small>でんぶ</small>を触ってきた

マグロ初競り_5.1億円_すしざんまい

杉本福井県前知事_セクハラ歴 20年 1000通

世の中、成人の日を絡めた3連休の中日、山陰や東北、北海道にかけては暴風雪の大荒れのようなのですが、東京は青空が広がるやや肌寒いお天気です。正月に付きものの豊洲市場での初競り、青森県大間産 243kg のマグロがなんと 5 億 1000 万円で、すしざんまいが 6 年ぶりに競り落としたとのこと。なんとも景気のいいお話です。釣り上げた漁師さんにはその約 8 割が渡るとのこと、宝くじよりスゴいなあ〜と、年末ジャンボで全く箸にも棒にもかからなかった僕としては、うらやましい限りです。もっとも釣り上げた漁師さんは、超ベテラン、命がけで荒海にチャレンジした結果で、僕とは比べようもないのですが…。それでもどこか心の中はトホホです。

ベネズエラに続いて、グリーンランドやイランの地下資源が欲しいとトランプが暴れまわっているこの世界で、東大卒元官僚の前福井県知事が杉本達治という 63 歳の男が過去 20 年間にわたり〜ということは、霞が関の官僚時代から？一複数の女性職員に 1000 通もの LINE や私用メールを送りつけていたとの報道がありました。なんで 20 年もバレなかったのって思いますが、実に情けない我が国の“平和ボケ”ぶりかな？と改めてため息がこぼれます。その杉本さん昨年 12 月末、この件を受けて知事 2 期目半ばで辞任し、退職金 6000 万円超をすんなりと受け取ってトズラしたそうです。法的にはおかしくないようですが、なんかねえ〜って思います。家族の皆さんも恥ずかしく街を歩けないでしょうね。東京新聞 1 面“筆洗”でも取り上げられていました。

筆洗 1月8日付

百度参りは、特定の寺社に百度参拝し祈願すること。昔から行われているらしい。鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』は、奥州合戦の必勝祈願で北条政子が鶴岡八幡宮で行ったと記す▼百という数字は熱意の表れだが、これを上回る千という数に驚く。福井県の杉本達治前知事(63)が複数の女性職員に、セクハラに該当するメッセージを約千通送信していたことが、県の依頼を受けた弁護士との調査で判明した▼総務省出身の杉本氏は今から 20 年以上前の 2004 年から 3 年間、県総務部長を務めたが、送信は 07 年から確認されている。「キスできたら安心できるかなあ」「いくら口説

いても会ってくれないけど、ずーっと、ずーっと、追っかけをするからね」…▼執拗さが罪深い。総務部長退任後、副知事に登用されたり知事候補にかつがれたりした際、被害者は何を思っただろう▼スカートの中に手を入れて尻を触るなど、接触を伴うセクハラは3件。先月、弁護士の調査が終わらないうちに知事を辞したのは観念したからなのか。官僚として期待され、知事にまで上り詰めた人の残念な終わり方である▼「千日に刈った萱一日に亡ぼす」は千日かけて刈り取った萱を一日で焼いてしまう意で、長い時間をかけて築いたものを一度で失うこと。前知事の場合、身を滅ぼす炎は約20年くすぶっていたということか。燃やし続けたのはご本人である。

この新聞記事を打ち直しているだけで、アホらしいと思っていましたが、“下半身に人格なし”というけれど、この人は上半身、特に脳みそにも人格はなかったのでしょうか。恥ずかしい、これから残された人生、どうやって生きてゆくんでしょうか。森友学園問題で叩かれた佐川さんという財務官僚と似たようなサラリーマン人生の結末ですが、似て非なりなのかな？ん～、よく分かりません。

今朝のニュースで、高市さんが今月23日に召集される通常国会冒頭で衆議院を解散するとの報道がありました。解散後の衆院選の日程は1月27日公示、2月3日投開票か、2月3日公示、15日投開票とのこと、維新との連立政権ですが、相次ぐ議員の離党、除名で過半数にあと1名まで議席を減らした現状を打破するために支持率が高いうちに自民票を増やそうという魂胆ミエミエですが、次には国民民主が連立に浮足立っているし、立憲民主は存在感まるでなしの状況で勝算ありと見ているのでしょうかね。選挙民は高市政権をどう見ているのか、その勝負にかかっているようです。米がらみの物価高、対中戦略でのレアアース等の輸入規制、けっして実情はそんなに甘くはないと思いますが、なんせ国民はノンキな人が多いですからね。国民もノンキだけど、国会議員にはもっとノンキっていうかノーテンキな人もいます。正月早々にこんなことをしていた議員さんたちもいたようです。東京新聞“本音のコラム”前川喜平さんの論評です。

戦争犯罪容疑者との握手 1月11日付

前川 喜平 — 現代教育行政研究会代表 —

超党派の国会議員十数人がこの正月イスラエルへ行った。自民党の小野寺五典、大岡敏孝、阿部俊子、宮内秀樹、大野敬太郎、松川るい、鈴木大地、日本維新の会の青柳仁士、和田有一朗、金子道仁、れいわ新選組の多ヶ谷亮、無所属の福島伸亨といった面々だ。

国際司法裁判所は一昨年7月、イスラエルのパレスチナ占領政策を国際法違反だとする勧告的意見を出した。国連人権理事会の調査委員会は昨年9月、イスラエルのガザでの行動をジェノサイド(集団虐殺)だとする報告を出した。そんな国にぞろぞろ出かける神経が理解できない。

9日の本紙によれば日本はガザ侵攻後イスラエル製武器を241億円分も購入したそうだが、小野寺氏や松川氏はXへの投稿で、イスラエルのドローンなどへの強い関心を示している。ガザで何万人もの市民を殺した武器を、小野寺氏らはもっと買いたいらしい。

イスラエル首相府の公式Xには、小野寺氏がネタニヤフ首相と握手する写真や全員で同首相を囲む集合写真が掲載され、同首相は一行に対し「戦争中のイスラエルへの支持に感謝した」と記されている。ネタニヤフには国際刑事裁判所が一昨年11月、戦争犯罪容疑で逮捕状を出している。そんな人物との握手を全世界が見ているのだ。全く情けない。

え～！こんなバカなことしてるんだと、ただただ呆れて読みました。イスラエル製武器を241億円分購入したことは新聞で読んで、それにも驚いていたのですが、まさかもっと買いたいと“おのぼりさん”をキメてネタニヤフに会いに行つてよろこんでいる輩がこの日本にいる、この人たちが今度の選挙に立候補して、国民の皆さんは当選させるつもりなのでしょうか。と、言ってもこの報道、マスコミではほとんど取り上げていない、前福井県知事のエロ騒ぎより、こっちの方がもっと批判されるべき話題です。選挙前の話題づくりにはあまりにお粗末ですが、高市さんは“よくやった”と頭をナデナデしているのかな？

かつて歴史の授業で、米国の“モンロー主義”について説明を受けた記憶がうっすらとありますが、今般、それを真似てトランプさんご自身の滅茶ぶりに関して“ドンロー主義”なる用語を使い始めました。頭はドナルドの“ド”だそうです。何じゃそれ？第5代ジェームス・モンロー大統領が提唱した外交・安保戦略の基本原則ですが、当時の欧州による南北米大陸への干渉や植民地化を拒否する一方で、米国も欧州の政治に関与しない“相互不干渉”のことをいいます。でも、トランプさんがやっていることは“月とスッポン”に思えます。トランプさんの最近々の話題は、気候変動条約やジェンダー平等機関など66の国際組織から米国が離脱することを表明したことです。信じられない、こんなトランプさんに尻尾をふっている日本政府は大丈夫なの？東京新聞“本音のコラム”北丸雄二さんの論評です。

大義名分を捨てる時 11月9日付

北丸 雄二 — ジャーナリスト —

凄いものを見ました。CNNのインタビューでホワイトハウス次席補佐官スティーブン・ミラーがベネズエラの主権侵害と大統領拉致の正当性を口角泡飛ばし捲し立てたのです。「現実世界は強さと武力で統治される」「我々はスーパーパワー(超大国)の軍事力行使で、我々の半球と自国の利益を守ることに謝罪などしない」「自由社会の未来は米国が憚ることなく権益を主張することで成り立つ」▼彼は第1次政権では演説執筆者でしたが今やトランプの最側近です。悪名高い「移民狩り」も彼が立案者で、「法と秩序」の下に法規超越の無秩序政策を操りだし、グリーンランドの領有

権主張でも同盟関係などガン無視して「米国と戦える国などない」と嘯く。トランプ政権の本性は彼の言葉に最も正直に表れます▼「世界は力で統治される」というのは事実でしょう。マドゥロその人も選挙を力で捻じ伏せ失政を圧政で封じ込めた独裁者。かように力はしばしば正義ではなく悪に親和する。ロシアとウクライナ、イスラエルとガザ、中国と台湾も「力による現状変更」問題です▼マドゥロ逮捕はパナマ侵攻時のノエガ逮捕の再演。ただあの頃はまだ国際法違反が後ろめたかったのか。作戦名は「大義名分作戦」でした。大義名分を示す面倒も端折って軍事侵攻を恥じない今、米国は世界の警察からは会社に変身します。

イランの反体制デモで犠牲者が増えています。これにもトランプさんは支援として軍隊を投入するといひ始めました。イランと米国、ガチで戦うとなれば、核兵器の使用が懸念されます。世界はますます混沌とした状況へと進みそうな予感です。

AIについては、僕もほとんど関わりのない日常の中で暮しています。今後どうなるのかは分かりませんが、東京新聞の論説委員の方がかなり僕寄りの提言をしていました。

コンパス 1月11日付

包み込まれる

- 林 啓太 -

「人間性」の根源は、身体を介した喜怒哀楽にある。身体を持たないAIは、道具であつても人間の伴走者にはなり得ない。私は2023年6月の本欄で、質問に奇妙キテレツな回答をしたことも引き合いに、人工知能(AI)をこう評した。

AIは身体を持たないので、人間のことを分かり得ない、という考えの根底は今も揺るがない。でも、その性能の進歩については、目を見開かざるを得ない。

若い同僚が取材の録音の文字起こしにAIを使い始めた。40代半ばを超えた私は冷めた目で見ている。が、出来心で同じことを試みて腰を抜かした。私と取材相手の声を分別し、文面としてパソコンの画面にたちどころに表示させた。間違いはほとんどない。今まで録音を何度も聞きなおしていた努力は何だったのか。

懸念もある。録音が、AIの運営者など外部に漏れることはないのか。AIで文字起こしをするのは当たり障りの内容にとどめようと思う。それでも、気持ち悪いことに変わりはない。

記事の構想を固め、要点を聞き出す。こうした技能がAIに頼ることで衰えないか。マルクスは、人間が道具に使われる状態を「包摂」と言った。AIは莫大な資本を投じて組み立てられたシステムだ。その中に包み込まれ主体性が奪われていくことが恐ろしい。

僕のこんな作業もきっと、AIを駆使すれば、いとも簡単に出来上がってしまうのだろうことは十分予測できます。新聞の読み取り、切り抜き、コラムの作成の時間を考えるとほぼ1日仕事です。AIを使えばその半分以下の時間で済まされるのだろうと思います。この作業もかれこれ25年、でもコツコツと手作りで老後を愉しみたいものです。